

松山市における仮設の公共サインに関する研究

千代田 憲 子 (美術教育講座デザイン研究室)

(平成18年6月2日受理)

A Research into the Design of Public Signs for Temporary Use in Matsuyama Noriko CHIYODA

はじめに

松山市は、温泉・文化・自然と、他都市から羨まれる程の恵まれた特徴とイメージを持ち、観光は重要な産業である。現在、様々な景観整備が進行中であるが、その反面、観光客にとっては、地図はあるが行ってもわからない、聞いても謂われがわからないという現状もある。

街路景観や案内サインの機能的な整備や情報提供と共に、今後は、情緒的で感性的な満足や快適性を提供することが重要である。そして、地域住民の意識の啓発が、望ましい循環を起こすことにつながるという視点で取り組んだものである。

1. 研究の目的

松山市は、『坂の上の雲』まちづくりを行なっているが、『坂の上の雲』ゆかりの地域資源が有する物語や価値の案内や紹介が不足している。観光客や市民のみならず、地域住民すら気づいていない現状もある。

地域資源の存在とまちの個性を発見再生するために、サインデザインの研究を行なう。仮設による記名サインの提案を通して、地域資源を活用した回遊型の観光とまち歩き、また、市民参加のまちづくりに寄与することを目的とした。デザインを専攻する学生の意見をまちづくりに反映した提案とするために、デザイン研究室の7名の学生が調査研究に参加している。

2. 研究、調査の方法

2.1. 研究の方法

サインデザインはシステムで考えるものであり、案内・誘導・記名・解説で構成されるが、松山市の道しるべマップ事業等が進行中であり、今回の目的からも、記名サインを対象としている。

本研究は、対象地域の記名サインの実態調査を通して、

現状の問題点について把握と整理を行なう。次に、仮設記名サインデザインの検討とヒアリング調査をふまえて、仮設記名サインの提案を行ない、製作・設置をする。さらに、検証として現地でヒアリングを行なった後、仮設記名サインのデザインと製作、設置について考察し、周辺の景観・環境整備との連携の重要性など、今後の課題と提案・提言を行なった。

2.2. 調査地域の選定

調査地域は、『坂の上の雲』マップ(注1)に掲載されている、松山市の中心市街地の松山城周辺・道後温泉周辺・ロシア人墓地周辺とした。サインの実態調査を行なって現状の問題点について把握と整理の後に、連続性や所要時間、その他の条件などから、今回の目的に最適と判断して、『坂の上の雲』マップダイジェスト版のAぐるっと城下コース(注2)を選定した。

2.3. 調査・分析の方法

2.3.1. サインの実態調査の方法

『坂の上の雲』マップ(注1)に掲載されている松山城周辺の22箇所と、道後温泉周辺の10箇所、ロシア人墓地周辺の4箇所、計36箇所、サインの実態調査を行なった。

設置されているサインと設置状況を撮影して、既存サインの基数と外国語表記の有無などから、問題点の抽出を行なった。

2.3.2. 設置箇所の実態調査の方法

選定された『坂の上の雲』マップダイジェスト版(注2)のAぐるっと城下コースの14箇所において、設置箇所の実態調査を行なった。再度、設置されているサインと設置状況を撮影して、問題点の抽出を行なった後に整理をした。

2.3.3. サインアイデアの検討の方法

実態調査の結果をもとに、14箇所に設置する仮設記名

サインについて、キーワードとコンセプトを検討した後に、アイデアを展開して三段階の検討を行い3案に絞った。

2.3.4. サインアイデアのヒアリング調査の方法

デザイン決定に際して、市民の意見を聴取するために、賑わいが予想される、平成17年11月3日の第2回まちづくりライブ（大街道商店街／銀天街／ロープウェイ商店街／松山市）において、ヒアリング調査を行なった。

『坂の上の雲』のまちづくりブースに設けられたコーナーで、パネル展示を行ない、その周辺で、10時から16時の6時間、実施した。

2.3.5. 設置位置の確認調査の方法

設置箇所の再調査と設置方法の検討を行い、松山市と協議の後、該当箇所の設置位置の確認調査を行なった。

2.3.6. サインアイデアの再検討と製作・設置の方法

ヒアリング調査の結果から1案に絞ったうえで、さらにデザインの最終案を検討した。また、製作・設置の方法については、協議のうえ実施した。

2.3.7. 設置後の検証（ヒアリング調査）の方法

春の観光シーズンであり、ロープウェイ乗場のオープンで賑わう日時を設定して、平成18年3月11日、日曜日の11時から15時の4時間、⑦秋山兄弟生誕地と⑧松山城（松山城登城口入口）の2箇所でヒアリング調査を行なった。

3. 研究の結果

3.1. サインの実態調査

36箇所の既存サインと設置状況を撮影して、記名サインと解説サインの基数と外国語表記の有無、また、類似のサインについても確認した。資料写真と共に問題点や印象を特記事項として、表記したものを元に一覧表を作成した（表1）。

記名サインの側面に解説があるものや、解説サインの表題として記名があるものなどがあった。設置時期や材質の違いなど、統一感はなく、経年変化で読みづらいものや寂れた印象を与えるものも多く見られた。

類似のサインとして、松山市教育委員会が設置した「俳句の里 城下コース」があり、その他に任意のサイン類が乱立して煩雑な印象を与える箇所もあった。

整備されている箇所もあるが、周辺の屋外広告看板な

どが目立っており、サインの存在を認識できない箇所もあった。堀之内公園や松山城など、広範囲の箇所は特に配置を示す案内サインや動線への配慮が不足していた。

以上のような現状の問題点と課題を、A材質・B設置箇所・C周辺環境・D形・E色・Fサイズ・Gメンテナンス・Hその他としてまとめ、地図上にプロットした。

材質・形・色・サイズというデザイン自体の問題のほかに、設置箇所・周辺環境・メンテナンスに関する問題が多く、また、マップとサインの表示に整合性がないことで、混乱を招くものもあった。

3.2. 設置箇所の実態調査

A ぐるっと城下コースの14箇所において、設置箇所の実態調査を行なって、前述のAからGの現状の問題点を整理してポイント化を試みた（表2）。

①正岡子規生誕地⑨愚陀仏庵跡⑩俳誌「ほととぎす」創刊の地⑪正岡子規旧邸跡⑫子規母堂令妹住居跡⑬正岡家墓地跡⑭子規堂は、3ポイント以上と問題点が多い箇所であった。また、調査にあたった学生たちが、石材の特色である材質感と無彩色および、墓石や御触書のような形状に良いイメージを受けないことは、発見であった。

①正岡子規生誕地は、自転車の駐輪に取り囲まれて、サインに近づけないばかりでなく、ゆかりの場所であるというイメージには遠く、景観を阻害していた。

③松山中学校・勝山学校跡は、整備されているが、建物との一体感が強いために、かえって気付きにくくなっている。

⑤萬翠荘⑥愚陀仏庵は、旗地形状でわかりにくい箇所であり、『坂の上の雲』記念館と周辺の整備工事期間中の対処として、仮設サインは重要である。現在、入口のアーチは車への目印としての効果は大きいですが、そのスケールから、歩行者はむしろ見上げずに気付かないこともある。

⑨愚陀仏庵跡は、現在駐車場だが、商店街の背面が露出しており、サインの背景に何らかの修景が必要な箇所である。

コースの後半である⑩俳誌「ほととぎす」創刊の地⑪正岡子規旧邸跡⑫子規母堂令妹住居跡⑬正岡家墓地跡は、いずれも道路の拡張整備のために、かつての面影はなく、歩いて訪れる熱心な来訪者に応えられる状況ではなく、サインだけで解決する問題ではない。しかし、道

表1 サインの基数一覧

『坂の上の雲マップ』の36箇所	エリア			Aぐるっと 城下コースNo.	記名サイン		解説サイン		類似サイン			
	松山城 周辺	道後温泉 周辺	ロシア人 墓地周辺		基数	外国語表記	基数	外国語表記	基数	外国語表記	名称等	
											基数	外国語表記
1	① 正岡子規生誕地	○			1	1			1		俳句の里 城下コース	
2	② 正岡子規旧邸跡	○			11	1			1		俳句の里 城下コース	
3	③ 子規母堂令妹住居跡	○			12	1			1		俳句の里 城下コース	
4	④ 正岡家墓地跡(法龍寺)	○			13	1		1				
5	⑤ 子規堂	○			14	2		1	1		県指定史跡の立て札	
6	⑥ 愚陀仏庵跡	○			9	1			1		俳句の里 城下コース	
7	⑦ 愚陀仏庵	○			6			1				
8	⑧ 子規の句碑	○									俳句の里 城下コース	
9	⑨ 子規記念博物館		○			3		1	1	英		
10	⑫ 秋山兄弟生誕地	○			7	1	英	1	1	英・中・韓	松山回遊ループバスのりば	
11	⑬ 愛媛県歴史民俗資料館	○										
12	⑭ 秋山好古の墓(鷺谷墓地)		○			1			3	英	道後村巡り・手作り	
13	⑮ お囲い池(松山市青少年センター)		○					1				
14	⑯ 明教館		○					3	英			
15	⑳ 松山城	○			8	2		1				
16	㉓ 松山中学校・勝山学校跡	○			3	1			1		俳句の里 城下コース	
17	㉔ きどや旅館跡	○							1		俳句の里 城下コース	
18	㉕ 俳誌「ほととぎす」創刊の地	○			10	1		1				
19	㉖ 歩兵第22連隊跡			○		1						
20	㉗ ロシア人墓地			○		2		1	1			
21	㉘ 歩兵第22連隊硝舎(護国神社)			○		2			3		規制サイン・案内サイン	
22	㉙ 大林寺	○				1		1				
23	㉚ 道後温泉本館		○			4		3	1	英	道後村巡り	
24	㉛ 四国霊場51番札所 石手寺		○			2						
25	㉜ 二之丸史跡庭園	○						1				
26	㉝ 堀之内公園	○				3						
27	㉞ 萬翠荘	○			5	1		1				
28	㉟ 温山会館(松山大学)	○										
29	㊱ 一草庵			○		1		2	英	6	道後村巡り・石碑	
30	㊲ 庚申庵	○				1		1	英	1	俳句の里 城下コース	
31	㊳ 道後放生園(足湯・坊ちゃんカラクリ時計)		○			1		4	1	英	道後村巡り	
32	㊴ 道後温泉駅		○			1		2				
33	㊵ 湯築城跡(道後公園)		○			4	英	8	2	英	道後村巡り・手作り	
34	㊶ 宝厳寺		○			1	英	1	英	1	英	道後村巡り
35	県庁	○			1							
36	河東碧梧桐の句碑	○			2			1				
基数の計						41		37		28		

※白抜き文字番号は写真付紹介番号/番号なしはダイジェスト版のみの記載

路幅員も広く、車の交通量も多い箇所なので、目印としての役割は大きいと思われる。

⑭子規堂は、類似サインと句碑が乱立しており、文字に関わるものが文字を大事にしている逆転現象が起きているともいえる。既存のものを整理統合する早急な対応が望まれる。

また、周囲の景観に紛れたり、旗地形状でわかりにくい箇所が①③⑤⑥⑨⑩⑪⑫⑬⑭と、大半の10箇所であり、記名サインの有効性が問われることは、明らかである。

表2 問題点の整理

現状の問題点 設置予定箇所	A		B		C		D	E	F	G	計					
	材質	設置箇所	周辺環境	形	サイズ	メンテナンス	無彩色	位置が低い	農具が進んでいる	傾いている						
① 正岡子規誕生地	●				●	●	●			●	-5					
② 河東碧梧桐の句碑							●				-1					
③ 松山中学校・勝山学校跡					●						-1					
④ 県庁											0					
⑤ 萬翠荘		●			●						-2					
⑥ 愚陀仏庵					●					●	-2					
⑦ 秋山兄弟生誕地								●			-1					
⑧ 松山城	●										-1					
⑨ 愚陀仏庵跡	●		●	●	●		●			●	-6					
⑩ 俳誌「ほととぎす」創刊地	●				●		●				-3					
⑪ 正岡子規旧邸跡	●			●	●	●	●			●	-6					
⑫ 子規母堂 令妹住居跡	●			●	●		●			●	-5					
⑬ 正岡家墓地跡 (法龍寺)	●		●		●		●				-4					
⑭ 子規堂	●	●	●	●	●						-4					
計	-6	-2	-1	-1	-2	-2	-3	-7	-1	-2	-6	-1	-3	-2	-41	
		-9			-7			-11			-2			-6	-1	-5

※問題点一カ所につき-1点として集計

3.3. サインアイデアの検討

3.3.1. サインの方向性

14箇所に設置する、記名サインの方向性について松山市と協議を行なった。

- 1) 仮設記名サインとして、設置期間は平成18年度の観光シーズン中(3月-11月)の土日とする。
- 2) 設置に際しては、関係機関や近隣住民の協力を要請し、設置についての交渉は、松山市が行なう。
- 3) 製作と設置は、専門業者が担当する。

3.3.2. サインのキーワードとコンセプト

これまでの調査結果とサインの方向性から、仮設記名サインのキーワードを検討して、シンプル・視認性・親しみやすさ・歴史、趣き・イベント的の5つに絞った。キーワードから、以下のコンセプトを導いた。

[私たちは「坂の上の雲まちづくり」の一環として、

仮設による記名サインを提案します。設置箇所は「Aぐるっと城下コース」を予定しており、現地調査を行った結果、石やコンクリートに囲まれた箇所もあれば、木々の緑に囲まれた箇所もありました。また、既存の標識、広告等が乱立した箇所、周囲の駐車・駐輪の整備がされていない箇所など、周辺環境も様々で、スペースの面を見ても、幅の狭い道路沿いの民有地や交通量の多い車道の中央分離帯、また人通りの多い歩道など多くの問題がありました。本来、サインとともに周辺環境と一帯の整備が必要です。

これらのことから、場所をとらないシンプルな形やサイズのデザインであり、色使いも考慮した視認性の高い記名サインを提案します。その際、背景と同化しやすいグリーン系の色や無彩色の使用を避けるとともに「坂の上の雲」という響きから連想される雲や空のさわやかな印象を表現します。

また、ロゴマークを設定することによって統一感が生まれるとともに目印の役割を果たし、親しみや趣きのあるものを目指します。そして、土曜・日曜等の日中の設置に限られる仮設サインのため、軽量で移動可能なポール型のサインを提案します。]

3.3.3. サインアイデアの検討

自由に展開したアイデアを持ち寄り、形・動き・材質・音などの視点で7つに分類した後、キーワードとコンセプト、安全性などの検討を重ねて、記名サインとしての文字情報量も考慮した、三角錐型・ユニット型・動き型の3案に絞った。地元の資源活用にもつながる竹炭の風鈴や、竹材も検討したが、版面の汚れやイメージとの調和から、最終的には残らなかった。仮設でイベント的なイメージという事から布を使用しても、街に氾濫するバナー広告とは異なるものを意識した。

高さは、製作会社の意見を参考にして、製作・設置の安全性や耐久性から適当とされる2メートルとした。ロゴマークとロゴタイプは、雲をモチーフに、ポール型サインの版面でのバランスを考慮して検討した(図1)。

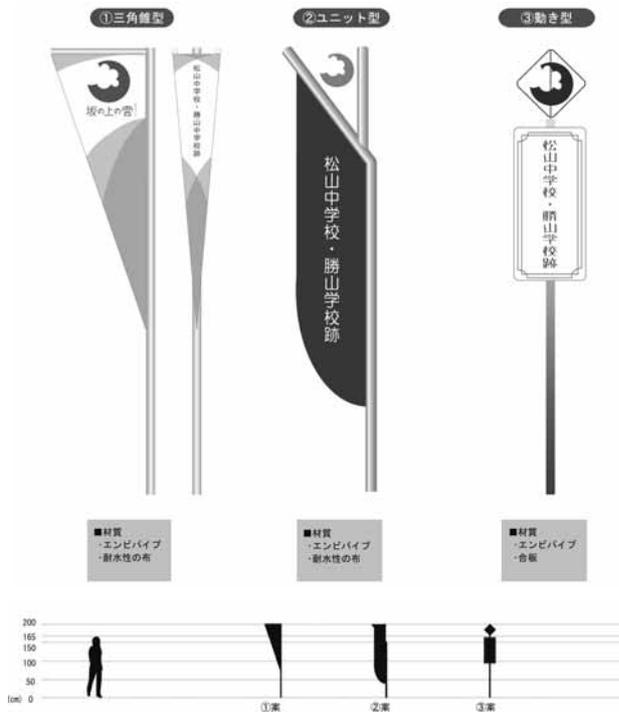


図1 サインアイデア

3.4. サインアイデアのヒアリング調査

市民の意見を聴取するために、平成17年11月3日の第2回まちづくりライブ（大街道商店街／銀天街／ロープウェイ商店街／松山市）において、ヒアリング調査を行なった。多様な催しが企画されており、朝は雨であったが、予想以上の賑わいであった。

『坂の上の雲』のまちづくりブースに設けられたコーナーでパネル展示を行ない、その周辺で10時から16時の6時間、実施した。提案についてのプレゼンテーションとして、コンセプトや計画の流れとAぐるっと城下コースの14箇所（14箇所）の現況、および3案の実寸大パネルと模型、移動用のサブボードを用意した（図2）。



図2 ヒアリング調査の状況（05. 11. 3）

3.4.1. 回答者の属性

ヒアリングの回答者は278名で、回答者の属性は、男性・女性ほぼ同数で、10代と20代がほぼ半数を占める。職業は、学生と会社員等が約30%で主婦が約20%と平均化しており、市内からの来訪者が80%近くで、観光客は2%と少ない。

3.4.2. デザインについて

3案（図1参照）の中で、①案が約60%の支持を得ており、その理由としては、さわやかな感じ・シンプルに続いて、センスが良い・わかりやすい・目に留まるなどがあげられる。②案と③案は、ともに約20%の支持であった（図3）。

選んだ案についての質問では、サイズについては、③案の支持が少なく、素材については、仮設という前提が不徹底であったのか、布への不安が伺われる。形と色使いは、どの案も高い支持を得たが、マークとマークの組み合わせは、①案が一番高い支持を得た（図4）。

自由表記にも、①案に一番多くの意見が寄せられ、立体的・三角形という点が着目されているが、文字やサイズを大きくという指摘もあった。②案は、落ち着きがあるが、少し地味で『坂の上の雲』のイメージとのずれを指摘したものがあつた。③案は、動きに注目しているが、バス停や道路標識に似ているという指摘もあった。3案をとおして、目立つと目立たないという両方の意見があり、捉え方の幅の広さが見受けられた。マークについての意見は少なかった。

また、いずれも、真剣な意見であり、活動している学生への暖かいまなざしが伺われて、まちづくりへの関心の高さにつながることを期待できる。

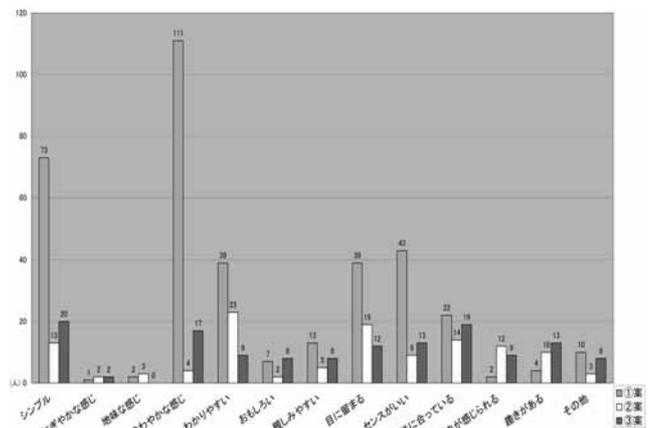


図3 選んだ理由

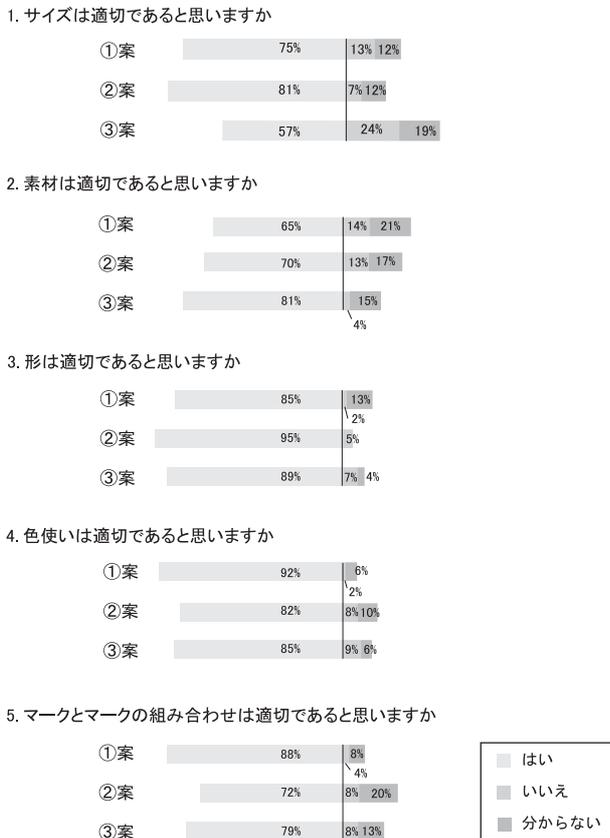


図4 選んだ案についての質問

3.5. 設置位置の確認調査

実物大の試作を持って、安全性や通行の妨げにならない点に留意しながら、設置位置を確認した。

その後、松山市と協議を行ない、④県庁は、建物自体がシンボリックであり、仮設サインの設置の必要性を認めないとした。⑤萬翠荘⑥愚陀仏庵は、旗地形状のために、入口に併せて表記する。設置位置に関しては再度検討することとした。⑧松山城は（松山城登城道入口）を追加して、より正確な表記とした。⑩子規堂は既存サイン類が乱立しており、整理統合を要する状況であり、景観を阻害することにつながるため、設置不要とした。

最終的にAぐるっと城下コースの14箇所のうち、12箇所への設置が妥当と判断して、⑤萬翠荘⑥愚陀仏庵は集約化して、1本のポールに併記するために、11本となった。

基礎の形態は、埋設7箇所[①正岡子規生誕地②河東碧梧桐の句碑③松山中学校・勝山学校跡⑩俳誌「ほととぎす」創刊の地⑪正岡子規旧邸跡⑫子規母堂令妹住居跡⑬正岡家墓地跡]と可動式コンクリート4箇所[⑤・⑥萬翠荘・愚陀仏庵⑦秋山兄弟生誕地と⑧松山城（松山城登城

道入口) ⑨愚陀仏庵跡]である。

3.6. サインアイデアの再検討と製作・設置

3.6.1. サインアイデアの再検討

1) 決定事項と変更点

ヒアリング調査の結果を受けて、決定事項と変更点の検討をした。

①案のデザインを詳細に検討する。

- ・形状とサイズは変えずに、全長2000mm（版面1190mm）、正面幅200mm、側面幅400mmとする。
- ・版面の素材は柔らかさを兼ね備えるために布とする。
- ・マップの番号を併記する。
- ・両側面は記名とし、正面は、ロゴマークとロゴタイプとする。
- ・フォントはゴシック体とする。
- ・記名に英語表記を加える。

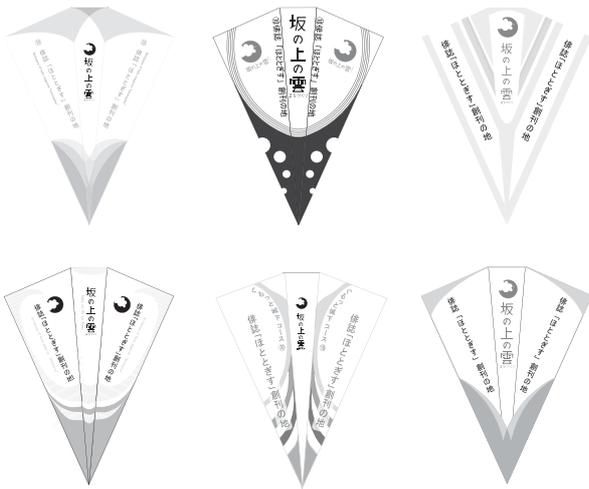
2) 再検討事項

- 以上より、①案のデザインの再検討を行った（図5、6）。
- ・ロゴマークとロゴタイプは、オフィシャルなものではないため、あまり大きく扱わない。
- ・当初予定していた設置期間中の格納場所が確保できず、常置に変更したため、退色などを考慮する。
- ・英語表記は、『坂の上の雲』マップダイジェスト版（注3）の英語表記を用いる。
- ・⑧松山城は、ロープウェイ駅舎が登城道入口も兼ねているために、（松山城登城道入口）と併記する。
- ・文字のサイズは、視認性から一段表記として、文字数の長い箇所を考慮する。
- ・色彩の幅をだすために、ブルー系にグリーン系を加える。
- ・正面の上下部を引き締め、展開図面で自然につながる曲線とすることで、柔らかさも出す。

3) 最終デザインの色彩とフォント

- ・色彩
 - ブルー系濃色 C90M60Y10
 - ブルー系淡色 C25M5
 - グリーン系 C20Y50
 - 記名文字 C100M70K40
 - ロゴマークとロゴタイプ C90M50
- ・フォント
 - MS UI Gothic 標準
 - 20ポイント（記名）
 - MS UI Gothic 標準
 - 10ポイント（記名英語表記）

再検討第1段階



再検討第2段階

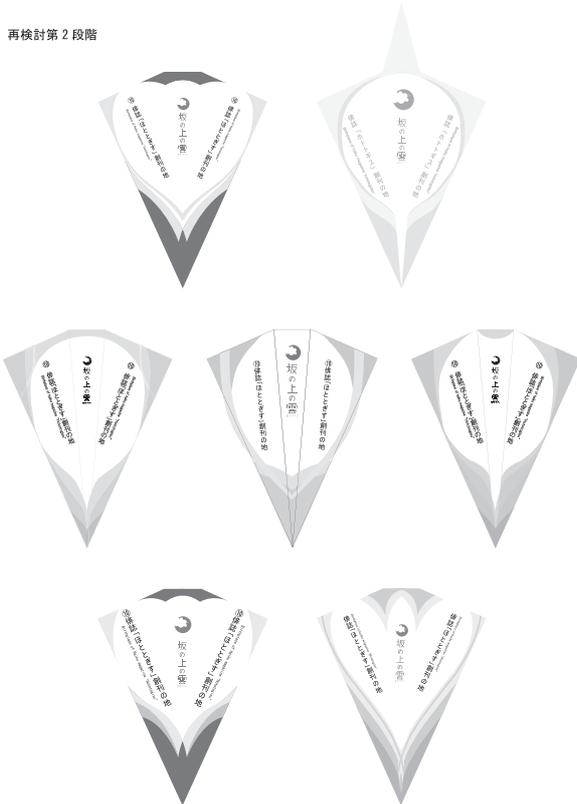


図5 サインアイデアの再検討

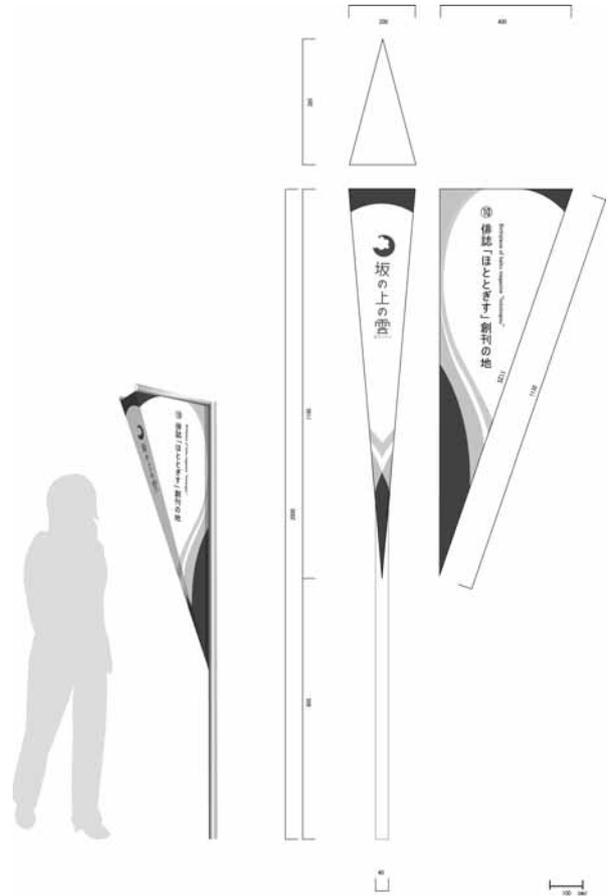


図6 最終デザイン案

3.6.2. サインアイデアの製作・設置

試作での検討を重ねて、製作面での打ち合わせを製作会社と行った。

版面の出力後の製作・設置は、製作会社に任せることとした。布素材（ポンジクロス）の特性である、インクの吸収量や色の再現性を考慮して、出力時に調整を繰り返した。

三角錐の形状を表現するために、内枠の検討も行ったが、支柱に版面を挟み込んで上部を空ける方法となった。支柱が木製に変更したために、素材色ではないシルバーを白色に変更した。また、ネジ山をパッチで隠すことや期間中の天候などへの耐性が充分であることを確認した。

使用する布素材は、雨を通すために、雨水よけの穴は必要ないこと、縫製時にすべて布の裏打ちは出来ないが、一枚でも可能なことなどを確認した。

当初の予定とは、製作過程で変更が出たが、デザインの再現性に問題がなく、設置期間中の耐性があるということで、コストを抑える方法を採用した。

3.7. 設置後の検証（ヒアリング調査）

⑦秋山兄弟生誕地と⑧松山城（松山城登城道入口）の2箇所において、ロープウェイ乗り場駅舎のオープンに併せて、平成18年3月5日の日曜日と11日の土曜日に行なう予定であったが、オープニングイベントが開催される当日の混雑を避けて、急遽中止となり、11日のみとなった（図7，8）。

⑦秋山兄弟生誕地と⑧松山城（松山城登城道入口）の比較も含めて分析を行なった。

3.7.1. 回答者の属性

回答者数は、⑦秋山兄弟生誕地39名と⑧松山城（松山城登城道入口）89名で合計は128名である。性別は男女ほぼ同数で、年齢は20代が20%、50代が28%、そのほかは10%前後であった。⑧松山城（松山城登城道入口）は、10代と20代で47%を占めており、学生が41%ということは、文教地区である城北から商業地区への幹線道路であることによる。

また、市内在住者が約70%で観光客は、⑦秋山兄弟生誕地29%⑧松山城（松山城登城道入口）13%であった。

3.7.2. デザインについて

どのような印象を受けますかの問いには、さわやかな感じ・シンプルに続いて、若さ、明るさが感じられるがあげられているが、前回のヒアリングと比較すると、センスが良い・わかりやすい・目に留まるなどの項目は多少減少している。

適切であるかの問いに、サイズと形については、前回とほぼ同様だが、素材については、24%も増加しており、実際に見ることで布への好感が持たれたようだ。色使いが5%下がっているのは、白地の増加と関係していると思われる。マークの形と色は評価されている。

自由表記には、サイズと文字がもう少し大きい方が良いという指摘があった。やはり街並で様々な建築物を背景にすると小さく華奢に見えるものと思われる。また、面白く、可愛いという多数の表記とともに、小説としての坂の上の雲や城下町のイメージではないという意見もあった。

3.7.3. 設置場所などについて

設置場所の適切さについて、肯定は約60%と低く、⑦秋山兄弟生誕地では、身障者車両の駐停車を考慮して、当初の予定である東から西へ変更したために、塀のかけでわかりにくいためと思われる。⑧松山城（松山城登城

「坂の上の雲」まちづくり 仮設サインのヒアリング

※本ヒアリングの調査結果は統計的に処理しますので、ご迷惑をおかけすることはありません。

記名サインのデザインについてお尋ねします。

- (1) このサインからどのような印象を受けますか？（複数回答可）
 シンプル にぎやかな感じ 地味な感じ さわやかな感じ
 わかりやすい おもしろい 親しみやすい 目に留まる
 センスがいい 街並に合っている 若さ、明るさが感じられる
 その他（ ）
- (2) サイズは適切であると思いますか？ (3) 素材は適切であると思いますか？
 はい いいえ わからない はい いいえ わからない
- (4) 形は適切であると思いますか？ (5) 色使いは適切であると思いますか？
 はい いいえ わからない はい いいえ わからない
- (6) マークの形は適切であると思いますか？
 はい いいえ わからない
- (7) マークの色は適切であると思いますか？
 はい いいえ わからない
- (8) 設置場所は適切であると思いますか？
 はい いいえ わからない
- (9) サインはその周辺の環境と合っていると思いますか？
 はい いいえ わからない
- (10) 設置方法は適切であると思いますか？
 はい いいえ わからない
- (11) 他の場所で見かけましたか？
 はい いいえ わからない
- (12) 目印になっていましたか？
 はい いいえ わからない
- (13) 何かご意見がございましたら、ご自由にお書きください。

性別： 男性 女性
 年齢： 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代以上
 職業： 会社員等 自営業 主婦 無職 アルバイト 学生 その他
 住所： 市内 市外 観光客 その他

ご協力ありがとうございました。

図7 ヒアリング用紙（06. 3. 11）



図8 ヒアリング調査の状況（06. 3. 11）

道入口)は、ロープウェイのりばのエスカレーター入口の透過性に比べて、階段口は非常にわかりにくいために、サインの存在が唐突な印象を与えることが要因と思われる。

配管の露出や扉は、通用口と誤解さえする。ロープウェイのりばの開放時間帯はエスカレーターが途中まで利用できることや、階段の利用時間帯を示すプレートや、仮設でないサインあるいは、ファサード面の工夫が必要だと思われる。

設置方法についても、肯定は60%に届いておらず、台座の可動コンクリートに対する配慮不足を指摘されたものと思われる。

この2箇所の設置は前日となり、他の箇所も数日しか経過していないために、認知度は浅いものと思われるが、マップやルートの存在自体を知らない市民も多い。

4. まとめと考察

4.1. 結果のまとめ

仮設記名サインが設置されたことにより、Aぐるっと城下コースに賑わいが創出され、地域資源の発見に寄与する整備になったと思われる(図9)。

メンバー全員が揃う(大半が集中講義で研修旅行に出発)3月10日に意見交換を行なった。以下、メンバーの意見を列記した。

4.1.1. デザインについて

1) 良い点

- ・視認性という点では、立体的な形、使用した色は松山市のサインになかったので目立って良い。
- ・立体的なデザインなので、イベント的なイメージを認識させることができた。
- ・さわやかで軽いトーンが良い。
- ・夜間に、白くて目にとまる。

2) 反省点

- ・実際設置すると小さく見える。
- ・サインの正面が狭く感じたので、全体のバランスや横と正面の比率を変えた、実寸大を複数作るなどして考慮すべきだったのではないか。
- ・色が薄くあせて感じた。
- ・記名の文字が小さく感じた。
- ・白っぽく、余白がありすぎた。同じ白でも、布と支柱

の差をつける。

- ・余白の点でも、マークは元のように大きくしたほうが良かったかもしれない。

4.1.2. 製作について

- ・エッジ(角)が思ったよりも出ていない。稜線や頂点が曖昧。
- ・裏打ちをする予定だったが、できなくなったため布が透けて、縫い目が目立つ。
- ・支柱に挟み込む際に、予想以上に引っ張られてレイアウトのバランスが崩れている箇所がある。
- ・支柱と布を止めているネジ穴の塞ぎ方が乱暴で汚く、そのままの箇所の方が良い。
- ・支柱の色・布地と木の質感を変えてみてはどうか。(例えば、古びた感じなど)
- ・木材のままだと手作り感が出るので、色を塗装しシャープなイメージにする方向で良かったと思う。

4.1.3. 設置場所などについて

- ・②河東碧梧桐の句碑は、周辺の景観が良いので、安心して見られる。
- ・③松山中学校・勝山学校跡は、今まで気付かなかった場所だが、自然に目に入るようになった。

4.2. 仮設記名サインについての考察

4.2.1. デザインについて

仮設サインということで、イベント的なイメージを取り入れた、布素材による立体的なサインを提案したことで、めずらしさや、さわやかさ、若さ、明るさを表現・伝達することができたと思われる。

バランスを考慮して、記名を一段表記にし、文字数の長い箇所にあわせたことで文字のサイズが小さくなり、結果的には文字の視認性を下げたと思われる。

退色を考慮して、白地を多くしたことで、当初よりインパクトが弱まった傾向がある。

4.2.2. サインの製作について

製作過程で、布素材でありながらもシャープなイメージという、本来の特徴が減少したことや、支柱もアルミから木質になった結果、コントラストが曖昧になり、当初のイメージの再現性が低くなったことは残念であった。試作をさらに繰り返し、検討する時間的余裕が必要であった。

なお、本来のイメージに近づける為に、木枠を差し込

A ぐるっと城下コースのサイン設置現況

坂の上の雲マップ ダイジェスト版より



① 正岡子規生誕地



② 河東碧梧桐の句碑



③ 松山中学校・勝山学校跡



⑤ 萬翠荘



⑥ 愚陀仏庵



⑦ 秋山兄弟生誕地



⑧ 松山城 (松山登城道入口)



⑨ 愚陀仏庵跡



⑩ 俳誌『ほととぎす』創刊の地



⑪ 正岡子規旧邸跡



⑫ 子規母堂令妹住居地

図9 サインの設置状況

⑬ 正岡家墓地跡 (法龍寺) (Motoyama Family Grave Site (Hōryū-ji))

む方法で、設置後修正を施した。

4.2.3. 設置について

1) 基礎の形態と設置について

安全上必要なことであるが、可動式コンクリートの台座部分が大きく、イメージを損なうので、仮設の限界を感じた。コンクリート部分の形状への配慮が必要であった。

基礎埋設が不可能な箇所もあり、仮設の場合はコストの問題もあるが、デザインの再現性と安全上、また景観の点からも、基礎埋設が望ましい。

近接していないので直接比較することはないが、設置場所の条件によって、ポールの高さが変更することにより、バランスがくずれていることも否めない。

また、各種の制約により、最適な位置から少し離れた箇所への設置となったことで、サインの存在に紛らわしさが生じた例もある。

②河東碧梧桐の句碑と③松山中学校・勝山学校跡は近接しているため、連続性が創出されて良い。

2) 条件の変更について

観光シーズン（およそ3月から11月）の土日と休日の日中に設置予定であったが、格納場所や管理協力者の問題で、期間中は常置することとなり、退色や夜間の問題など、メンテナンスに不安を残すこととなった。設置箇所によっては、排気ガスなどの影響で耐性に差が出ると思われ、良好な状態を保つためには、設置時期の短縮は致し方ない。

松山城登城道入口の設置位置は、当初のロープウェイ駅舎入り口付近から二回変更している。現地在工事中で実際の確認ができなかったことが一因でもあるが、結果的には、必要とされる望ましい場所であった。生誕地では、東から西へ変更したが、塀のかけで気がつかないという意見も多く、やはり当初の位置が望ましいと思われる。

⑤・⑥萬翠荘・愚陀仏庵と⑨愚陀仏庵跡は、研究期間中に協議先との調整が間に合わず、設置は後日、市役所の管理で行うことと、⑨愚陀仏庵跡が可動コンクリートから基礎埋設に変更もあり得ることとなった。

パブリックデザインに関しては、たとえ仮設であっても、デザイン以前と以後の調整が重要なので、研究期間には、今回以上の時間が必要である。

4.3. 今後の課題と提案

4.3.1. 周辺の景観・環境整備について

今回、改めて景観の問題が山積みであることを伝えたい。果たしてこの箇所を紹介して、このコースを歩いてもらって良いのだろうかと感じるような周辺の景観・環境も少なくない。屋外広告物の乱立、駐輪、そして、目的地の殺風景である。

さりげないおもてなしが訪れた人の心に響き、届くことを自覚した、観光地への前進が急務である。石碑しか残っていない跡地であっても、ほんの僅かなスペースの修景でイメージはかなり良くなる。コースの後半である⑩俳誌「ほととぎす」創刊の地⑪正岡子規旧邸跡⑫子規母堂令妹住居跡⑬正岡家墓地跡は、いずれも道路の拡張整備で、かつての面影はなく、歩いて訪れる熱心な来訪者に応えられる状況ではなく、記名サインだけで解決する問題ではない。往時を偲ぶ解説サインの充実や、近接地のポケットパーク化や休憩スペースの創出などは、補うに有効な方法と考える。

4.3.2. 連携の重要性

前述したように、パブリックデザインに関しては、関連機関との調整が最重要課題であるので、スケジュールのマネジメントと共に、連携が取りやすい仕組みづくりが必要である。

今回であれば、シンボルマークの選定など、関連の行事とスケジュールの連携を持たせることができれば、制作に携わる側も受け手の市民にとっても、より納得できる結果になったと思われる。

マスタープランやトータルなプランのなかでの位置づけの明確さとタイミングや、その後どのように反映されるのかなどの指針が重要である。

また、⑤萬翠荘は、企画展示期間中以外は二階部分の見学ができない。より配慮された展示空間やティールームの充実が望まれる。アコースティックな音楽会の開催や、恵まれた屋外空間と連動した催しの企画など、有効活用の可能性は極めて高い。⑥愚陀仏庵へのアプローチは、ユニバーサルデザインの視点を持つ整備が早急に望まれる。また、⑥愚陀仏庵は、⑭子規堂とともに、移築・再現されていることを理解しないままに旅行者を送り出してもいる。

資源の活用が行政や関係機関の連携ですすみ、より豊

かで高い質を提供することが、今後は重要である。

現在、様々なプロジェクトが進行中であり、解決へ動いている部分もあると理解しているが、これらの問題がひとつずつ解決されることで、楔のように機能が増して、相乗効果が上がることを期待するものである。

4.3.3. 今後への提言

全国で景観整備やサイン整備が行なわれているが、機能的な整備や美装だけでは、快適性は創出できず、利用者の満足度は高くない。情緒的な満足には様々あるが、品格や感性を重視したものが必要である。街の景観の地（ベース）となる部分が保たれているからこそ、その上に、仮設のものや季節感や主役である人々のファッションもいきいきと見栄えがすることになる。そして街の持つ魅力のひとつである猥雑さとのメリハリもうまく機能する。

今回取り上げたコースに提示している所要時間は、実際に初めて歩くと、かなりオーバーすると思われる。限られた時間内で移動する旅行者には、むしろコースを縮小することも視野に入れた検討も必要であろう。

また、若い世代の参加は、自分の街を再発見することにより、親しみを持ち、誇りと自信を生み、街への愛着につながることで、是非必要なことである。しかし、昨今頻繁に行なわれている活動の中には、協働者の接し方によっては、二度と関わりたくないという結果を残す事例もあるので、将来へ向けた良い循環を育むためには、今後とも、配慮が不可欠である。

おわりに

景観デザインに関連する分野で、地域に関わっているが、松山市が、今以上に魅力的な街になることを願ってやまない。そして、パブリックマインドやデザインマインドが浸透する日が少しでも早く来るように、私たちは、行動を止めることなく続けなければと改めて思いを強くするものである。

また、デザインを専攻する学生にとっては、より社会と関わりを持った実践的な取り組みが重要なので、自分達の住む街をフィールドとして、検証まで行えるという、得難い機会であった。現実を知り、実力を知り、チームワークや人のつながりの大切さを知り、今後の良い糧になったと思われる。以下、参加学生7名の感想である。

- ・当初は松山市に、自分たちのサインしたものが設置されるという実感がわかなかったが、ヒアリング後は現実感がわき、作業にむけてイメージが明確になった。嬉しさよりも、戸惑いと驚きがある。
- ・突然目にしたら、なんだこれと思うだろう。イメージどおりに仕上げたかった。
- ・実際にサインを作ることで、印刷色や素材なども考えなければいけないこと、現実を作るものと平面との違いを認識する場となった。
- ・実際に松山市に設置されるということもあり、プレッシャーを感じた。実際作ることでスキルアップにつながったが、反面自分の実力の無さがわかった。
- ・フィールドを歩くことで現場を知ることの大切さがわかった。実際の現場とも触れることができて良かったと思う。
- ・イメージを明確にしたあとの、チームワークの大切さがわかった。しかし、もっと自分たちの作っているものをヒートダウンして、客観的に見る作業をするべきだったと思う。推敲作業に対する時間をもっととるべきだった。
- ・中心になって活動することで見えてきたものがあった。もっとみんなと連絡を取り合うことが大切だと思った。客観的な意見をもっと取り入れるべき。
- ・前回の経験より、グループ作業がスムーズに進んだ。次の活動はもっと期待できる。最初はどのサインも突然でるわけで、これだけのことではない。

謝辞

細部にわたりご協力くださいました、松山市産業経済部 坂の上の雲まちづくりチームに御礼申し上げます。

また、ヒアリングに協力していただきました方々、ならびに、製作・設置を担当していただきました株式会社松山建装社に感謝の意を表します。そして、学生の調査をあたたく見守ってくださった皆様に感謝いたします。

付記

本研究は、受託研究（松山市）－『坂の上の雲』ゆかりの地域資源啓発案内サインデザインの調査研究－として、平成17年10月18日から平成18年3月20日の期間に

行なったものである。

デザイン研究室では、景観デザインに関する調査研究を行なっているが、デザイン研究室（愛媛大学教育学部芸術文化課程造形芸術コース/デザイン専攻）の学生も、松山市の中心市街地や内子町成留屋地区で、調査・提案を行なった経緯がある。

本研究を進めるにあたり、参加した2～4回生の7名（代表：3回生 山口千穂，記録：3回生 松岡恵利奈，4回生 長谷部美紀，3回生 橋本佳奈，2回生 石原小夜香，泉功太，山内愛）は、調査からデザイン，資料の作成まで、約半年にわたるプロジェクトを遂行した。

今後経験を重ねて、更に精度が高まるものと思われる。

注

1. 坂の上の雲マップ/坂の上の雲をめざして：松山市産業経済部 坂の上の雲まちづくりチーム
2. ダイジェスト版坂の上の雲マップ/坂の上の雲をめざして：松山市産業経済部 坂の上の雲まちづくりチーム
3. 坂の上の雲マップ/坂の上の雲をめざして English：松山市産業経済部 坂の上の雲まちづくりチーム
6. けやき通り[福岡市]の街路景観エレメントと街路景観イメージの関連性—ストリートアメニティ形成方法に関する研究（1）：千代田憲子・森田昌嗣/デザイン学研究，132，1—10/1999
7. 街路景観の快適性に影響を与える公共沿道空間の構成要素のあり方に関する研究：千代田憲子/芸術工学会誌，No.32，30—36/2003
8. 松山都市再生モデル調査報告書 若者が創る「坂の上の雲」のまちづくりモデル調査：松山都市再生モデル調査実行委員会・松山市/2004，3
9. 坂の上の雲マップ/坂の上の雲をめざして：松山市産業経済部 坂の上の雲まちづくりチーム
10. ダイジェスト版坂の上の雲マップ/坂の上の雲をめざして：松山市産業経済部 坂の上の雲まちづくりチーム
11. 坂の上の雲マップ/坂の上の雲をめざしてEnglish：松山市産業経済部 坂の上の雲まちづくりチーム

参考文献・資料

1. コミュニティデザイン 魅力ある街づくりとイメージ計画：佐藤 優/株式会社グラフィック社発行/1992.1
2. サイン・コミュニケーション〈CI/環境〉：サイン・コミュニケーション刊行会編/柏美術出版株式会社発行/1989. 9
3. 歩行者のためのコミュニティーサイン～わかりやすい街づくりの計画ガイド～：建設省都市局監/財団法人都市づくりパブリックデザインセンター コミュニティサインに関する研究会編/財団法人都市づくりパブリックデザインセンター発行/平成5. 11.
4. 新版わすれかけの街 松山戦前戦後：池田洋三/愛媛新聞社/2002. 6.
5. 観光地のためのひと目でわかる案内標識計画・設置・管理マニュアル：観光地域づくり・案内標識研究会編著/ぎょうせい/平成17. 9.

